

読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

私 は終戦の年である昭和20年4

月、空襲で私が寝ている隣の部屋に爆弾が落ちたり、戦後食糧難で毎日食べることに苦労したそうです。幸いにも幼かった私は、当時のことはほとんど記憶にありません。日本では毎年8月に原爆の日や終戦記念日を迎えます。しかしながら世界に目を向けると悲しいことに各地で戦争や紛争が起こっており、両親や姉兄から聞いた戦争の恐ろしさや戦後の苦難を、子や孫世代に語り継ぎ、今後も平和な日が続くよう、私なりに役割を果たしていきたいと考えております。(大ちゃんの母さん・女性)

来年、太平洋戦争終戦から80年を迎えます。市では戦後80年に向けて、戦争の記憶を次の世代に残すために、平和への取り組みや語り継ぐ活動を行っています。日々の平和な暮らしに改めて感謝しながら、毎日を過ごしていきたいですね。

学 生時代の友人とLINEでのやりとり。2人は兵庫と滋賀の出身です。ヘチマを、味噌炒めにして食べるとおいしいという私に対して、2人はタワシや化粧水として利用するけど、食べることはしないと言っています。大陸などと比較して、日本は狭いと思うときもありますが、広いなあ、違うところがあるなあと思う私でした。近畿地方では食べないのでしょいか？それとも一部の地域？(ちみさん・女性)

ヘチマはアジアを中心に栽培されていて、日本では主に九州沖縄を中心に食べられているようです。ご友人は関西出身なので、食べる習慣がなかったのかも知れません。ヘチマと言えば、小学校の理科の授業での栽培経験を出す人もいると思います。春に種をまき、夏に気温が高くなると葉がしげり、茎が成長し大きくなると食べられます。色んな調理方法で食べ比べてみるのも良いかもしれません。

健 康のため、雨天を除いてほとんど毎日グラウンドでラジオを聴きながらウォーキングをしています。その時、ラジオから南極への強い憧れで南極隊の料理人として夢を叶えました、というような内容の話をされていたのを何気なく聞いていました。そして広報かやを読んだら、あの時話されていたあの人の思い、とても興味深く読ませていただきました。大変なご苦労があったと思いますが、それ以上に夢を叶えてすごいです。そしてご苦労さま、お帰りなさい、という言葉をおぼろげに覚えていました。(かのやの美ちゃんさん・女性)

南極地域観測隊の中川潤さんについては、多くの感想をいただきました。誰もが簡単に行ける場所ではありませんが、機会があれば一度は行ってみたいと思う人も多いのではないのでしょうか。長年、南極への憧れを持ち続けて、実際に観測隊員として業務に従事することは、これまでの経験や努力、そしてご家族の理解や支援があったからこそ成し遂げられたことだと思います。夢を持ち続けることは大事なことです。ゆっくりとお話を聞く機会があれば、料理だけではなく船内や南極での生活など紙面で紹介できなかつたことをもっと詳しく伺いたいものです。

フォトネタ!



きゅうりんぐ

まるやま しばのさ 丸山重之さん(寿5丁目)の菜園で採れた、まるでドーナツのようなきゅうり。よく見ると内側にさらに小さいきゅうりが生えています。

六 月に入ると、梅雨が始まり田植えです。昔は人の手で苗取りをして10時より植え方です。子ども達も学校を休ませて、女の子は子守、男の子は苗運びに一日中大人と同じ時間働いたものです。約80年前ですね。今は機械で一人で済み、一日で田植えができる世の中。小さな子どももない世の中。淋しさだけが残ります。(S・Mさん・女性)

農業用機械が登場するまでは、家族総出で手植えをする時代がありました。多くの時間を費やし苦労した反面、食べ物の有り難さや家族の絆を感じられたのではないのでしょうか。農業に携わる人が減っていく中、生活スタイルの多様化により食生活も変化し、飽食の時代とも言われます。改めて、食べ物の大切さを感じ、食品ロスを削減するために、一人ひとりができる行動をしたいものです。